



うしかい座

うしかい座は春を代表する星座のひとつです。5月の夜空、8時ごろ。東の空にオレンジ色に輝く明るい星を見つけたら、それがうしかい座の1等星アルクトゥルスです。足立区の夜空でも良く晴れていれば、うしかい座の星の並びを見つけることができます。その形はパフェやソフトクリームを連想させるのではないのでしょうか。しかし、うしかい座は男の人の姿をした星座です。その正体についてはいろいろな説があります。

・うしかい座の頭の上にある星座「おおぐま座」の息子カリスト。おおぐまはカリストの母アルカスが神様によって変えられた姿だと言われています。

・女神デーメーテルの恋人イーアシオン。イーアシオンは穀物の種をまいた最初の人間と言われています。この説では先程の「おおぐま座」は荷車を引く牛の星座として描かれるそうです。これですと、うしかい座という呼び名もなるほどといった感じがします。

・天を支える神様アトラス。こちらの説は良く知られているお話ではないのでしょうか。ヘラクレスの冒険の中にも出てきますし、アフリカのアトラス山脈という名前もこのお話からきているようです。

以上3つ上げましたが、どれが正解という事は無いようです。星座を描いては色々と楽しんでいたという事でしょうか。そして今では、星座の物語を楽しむだけではなく、そこに輝く星たちについて調べることも出来るようになりました。例えば、アルクトゥルスですが、地球から約37光年離れたところで輝く星だという事がわかっています。その質量は太陽とほとんど同じ。しかし半径は25倍もあり、太陽に比べるとだいぶスカスカの星のようです。じつはアルクトゥルスは年老いた星でして、赤色巨星と呼ばれる星のグループに入ります。太陽もあと50億年ほどしたら、アルクトゥルスのような赤色巨星になると考えられています。

